

研究分野のキーワード：生活科教育，総合的な学習，教育方法学，カリキュラム理論

## 研究紹介

私のこれまでの研究活動・研究内容の特色は大きく分けて三つあります。

第1は、アメリカにおけるカリキュラムの理論と実践に関する研究です。日本では平成10年に総合的な学習が創設されて以降、全国画一的なカリキュラムではなく、地域の特色及び多様な子どものニーズに応じたカリキュラムの開発を各学校にますます求めるようになってきています。それゆえ、地方分権の教育制度の歴史と伝統をもつアメリカのカリキュラム研究は日本にとって示唆に富んでいます。私は、カリキュラム理論史を含め、アメリカのカリキュラム研究を積み重ね、それらを日本の生活科や総合的な学習のカリキュラム開発に活用して来ました。最近では、国内外で注目されている地域社会への子どもの参加、サービス・ラーニング（子どもたちが地域社会をより良くする学習）の理論と実践、多重知能理論の研究に取り組み、それらをいかに学校教育や学校のカリキュラムに応用できるのかについて研究しています。

第2は、生活科と総合的な学習に関する研究です。生活科と総合的な学習は、主要教科に比べ世間では認知度が低いのですが、それらが目指す力、子どもたちに育てようとする力は、「知識基盤社会」を生きる上で必要不可欠な資質能力に繋がる重要な力です。私は生活科と総合的な学習の意義や価値を検討するとともに、現在の生活科及び総合的な学習の理論と実践を改善する研究を行ってきました。たとえば、「生活科の合科的・関連的な指導に関するアンケート調査」をはじめ、「生活科の気付きに関する研究」「総合的な学習における異文化理解教育」「中学校の総合的な学習の可能性と諸問題」「総合的な学習における価値ある体験活動のあり方」「生活科や総合的な学習の授業を改善するための教師の研修プログラムに関する研究」等、小学校や中学校の現職の先生方との共同研究も積極的に行ってきました。

第3は、デューイ実験学校のカリキュラムの理論と実践に関する研究です。ジョン・デューイというアメリカの教育学者は1896年にシカゴ大学の附属小学校（デューイ実験学校）を開校しました。当時、教師主導の暗唱的な授業がほとんどあった時代に、彼は子どもの興味や関心、子どもの生活や意識を大切にしたい授業、活動やワークに基づいた授業を構想し、それを実験学校で実践しました。1899年、デューイが『学校と社会』(*The School and Society*)を公刊しその学校を紹介すると、この学校は瞬く間に全米で注目されるようになりました。その後、この本は世界各国で注目され翻訳されて、今でも教育学の名著として多くの人々に読まれています。しかし、残念ながら、この学校の理論や実践は表面的にしか理解されず、また、誤解され、活動主義、経験主義として批判され衰退してゆきました。私は、このデューイ実験学校のカリキュラム理論と授業実践を詳細に研究することで、デューイとこの学校の教師たちが決して科学的な思考や認識を軽視していなかったことを実証する研究を行ってきました。そして、その研究成果を日本の生活科と総合的な学習の理論と実践に応用したいと考えています。